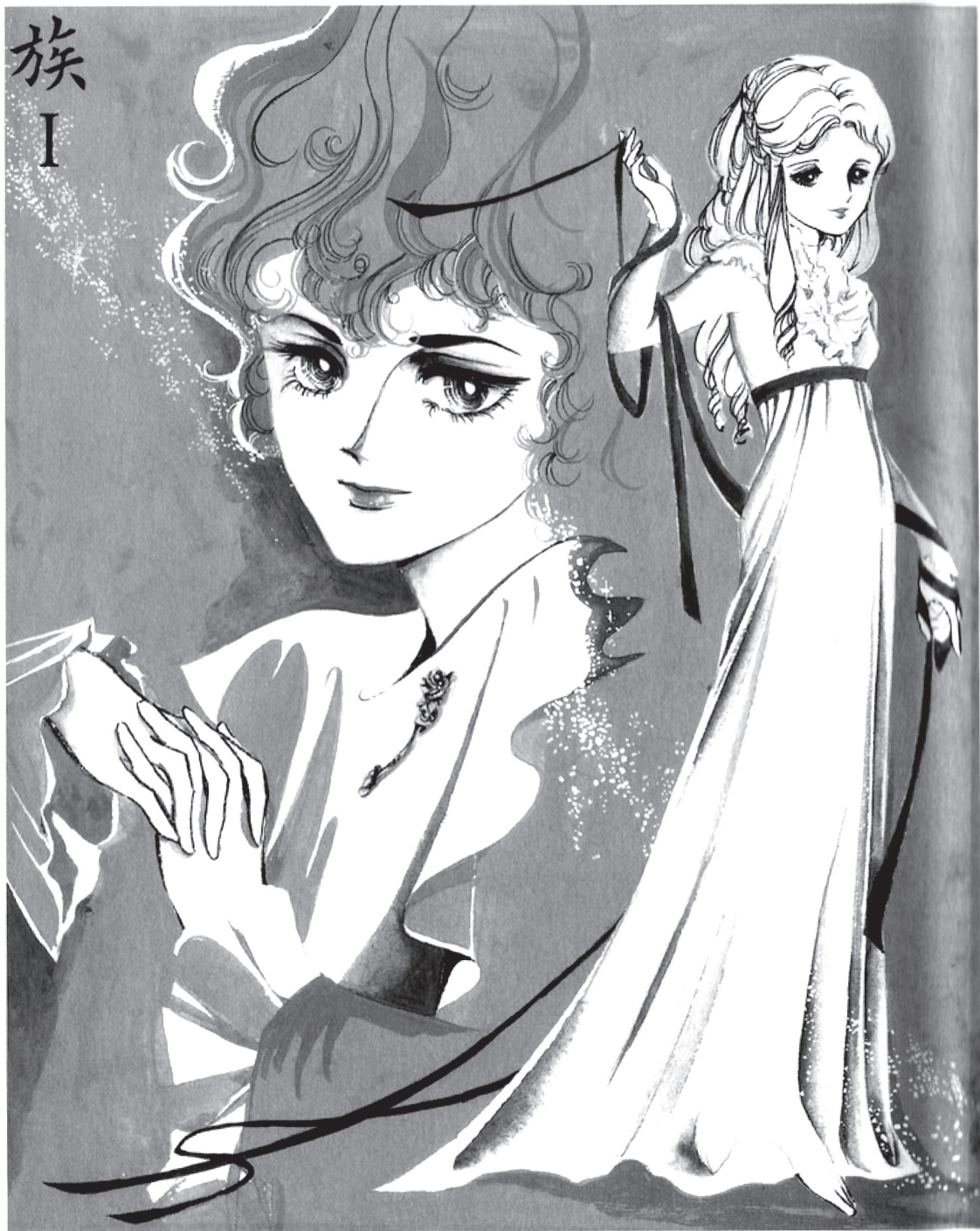


萩尾望都 Perfect Selection

ポーの一族  
I





目次

- すきとおった銀の髪……………7
- ポーの村……………23
- グレンスミスの日記……………47
- ポーの一族……………71
- メリーベルと銀のばら……………199
- 小鳥の巣……………359





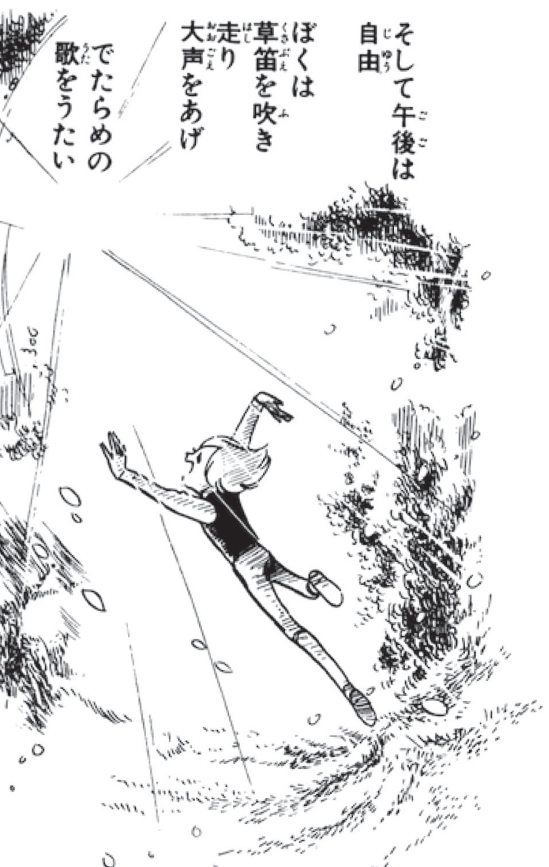


とばりの影には  
永遠の美

永遠の命

# すきとおった 銀の髪









…恋はたしかに  
少女のふくらみかけた  
胸の奥に  
ひそんでいて…

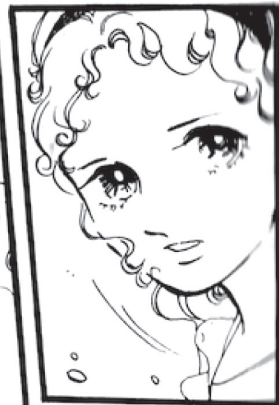
呼びかけて  
くる…どんな  
風や音楽の  
ことばより  
やさしく



おとといよ  
あたし  
メリーベル



いつきたの  
? …この家  
長いこと  
あき家だった  
んだよ



ふうん  
うちの  
エドガー  
兄さんと  
同じ年ね

ぼくは  
チャールズ  
十四だよ







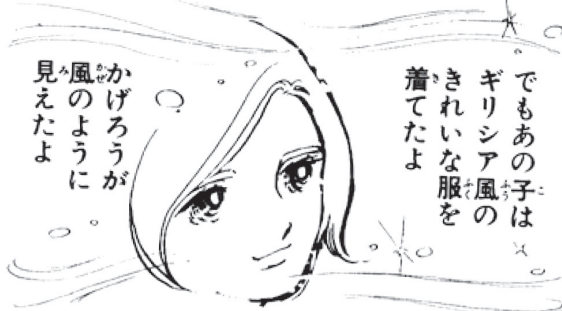
町はずれの古い屋敷に  
先日こしてきた  
一家のごんじ?

とぎれ  
とぎれの  
会話

ほおをそめ  
胸をあつく  
して...



荒れた庭の  
バラの中



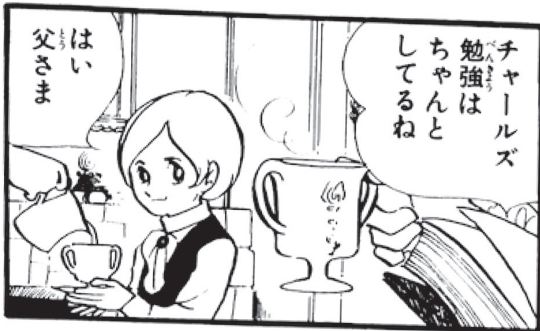
かげろうが  
風のように  
見えたよ

でもあの子には  
ギリシア風の  
きれいな服を  
着てたよ



ポーツネル卿  
ですって...  
へんくつらしいわ  
あいさつは  
おさなり  
メイドひとり  
おいてないそう  
ですって

貧乏貴族  
だろう



はい  
父さま

チャールズ  
勉強は  
ちゃんと  
してるね



コッ  
コッ



ところが  
翌日は  
午後になっても

姉さんの  
へたな  
ピアノが  
聞こえて  
こない





メリーベル  
きみのこと  
話してよ

メリーベル

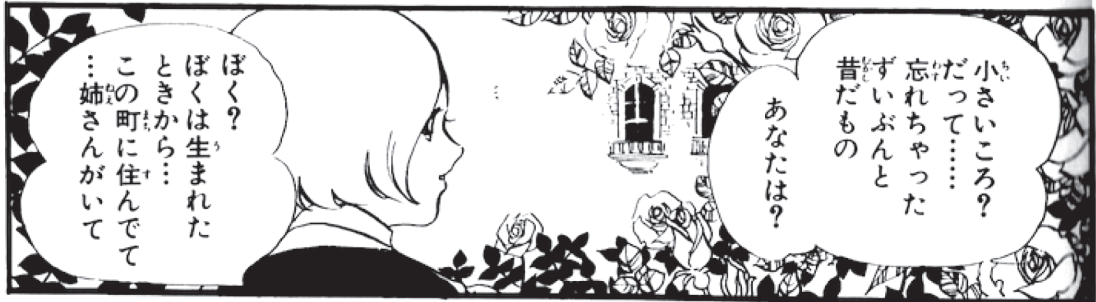
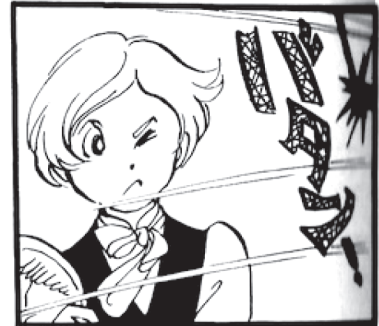
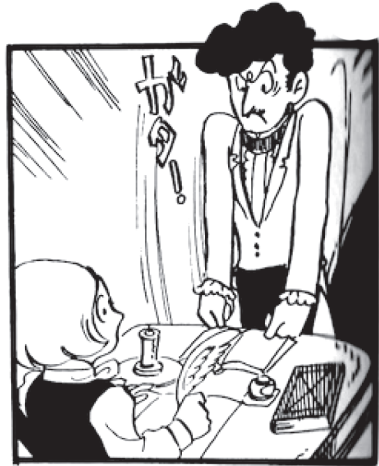
なあに？

聞きたいんだ  
きみの…たとえば  
小さなころの  
こととかさ



ははあ  
姉さんと  
なにかあったな

まあともあれ  
ぼくも脱出…



ぼく？  
ぼくは生まれた  
ときから…  
この町に住んで  
…姉さんがいて

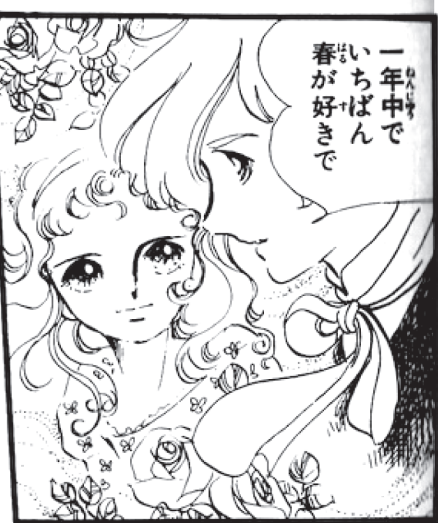
小さいころ？  
だって…  
忘れちゃった  
ずいぶんと  
昔だもの  
あなたは？



…きみが  
好きで…！  
お待ちよ！

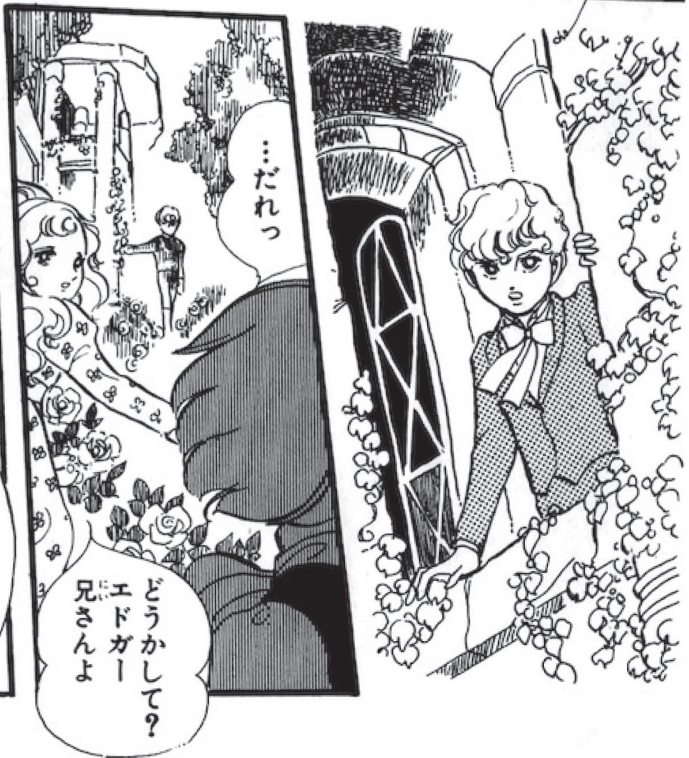
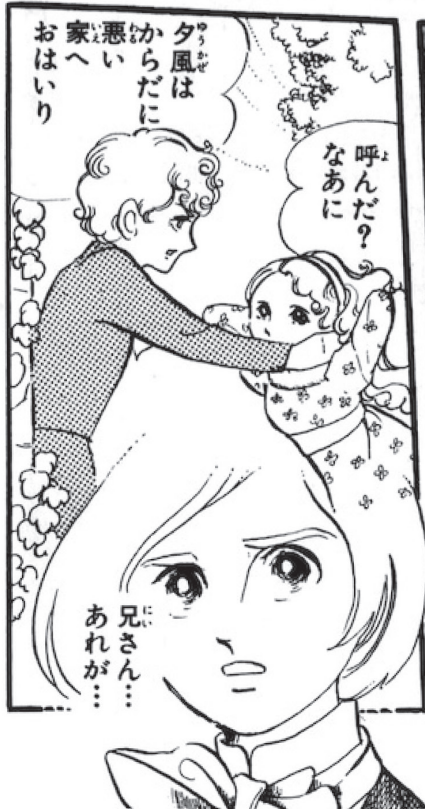
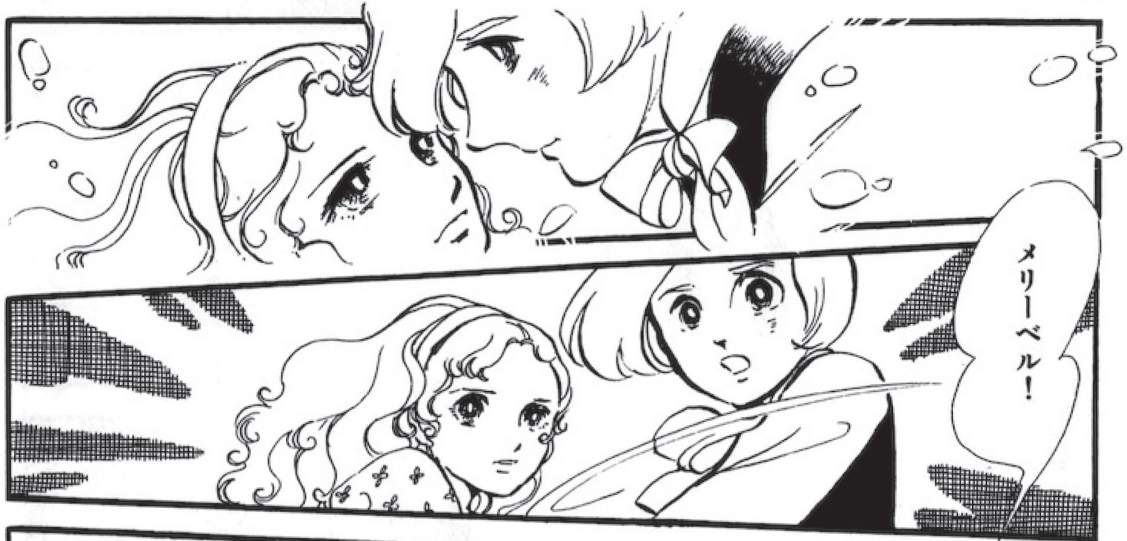
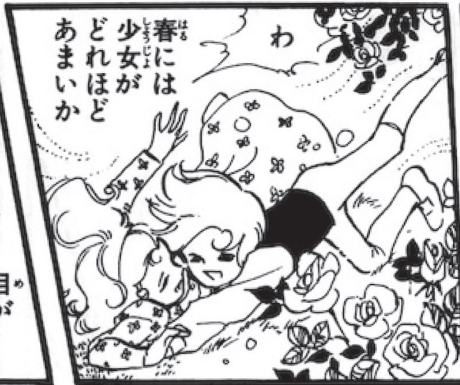


…今は  
世界中で  
いちばん…



一年中で  
いちばん  
春が好きで









また明日  
ね……  
あれでぼくと  
同じ年だって

百も年上みために  
……ぼくを見つめて  
……つめたい目……青い……



きみ……  
また明日  
ね……



でもね!  
へんな家ですよ  
……窓が  
ひとつも  
あいてないんですよ

おまえの口だす  
ことじゃないよ  
よけいなこと  
母さまに  
言ったら  
しやうち  
しないから



坊っちゃん  
町はずれの屋敷の  
女の子と  
遊んでるんで  
すって?



チャールズ  
……もっと早く  
帰ってらっしゃい  
心配するじゃ  
ないの



ああ  
聞きましたか?  
だれかが道を  
歩いてきた話……!

悪いことでも  
してるみたい  
……家中  
しーんとして



道ぐらい  
だれでも  
歩くよ

真夜中  
ですよ!

神父さまが  
窓から見たん  
ですって

すごく背が高い  
マントを着た人が……

すくなくともこの  
町の人じゃない人が……



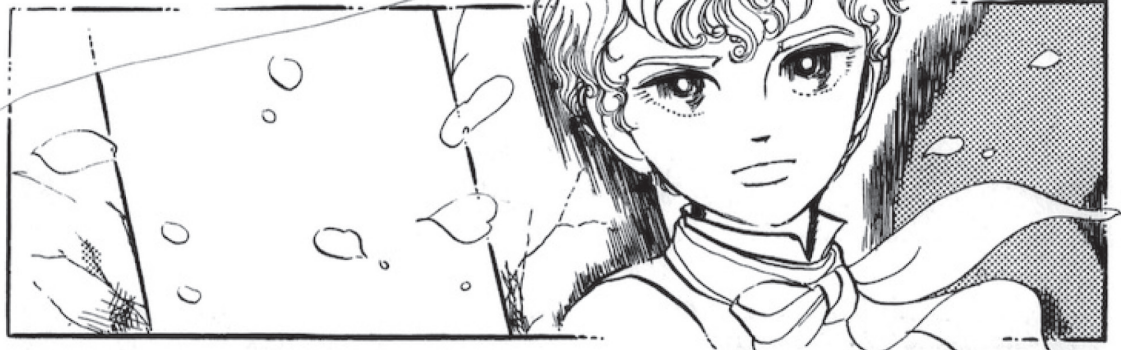


町はずれの  
屋敷のほうへ  
歩いていったん  
ですって

それだけ？  
いいじゃない！

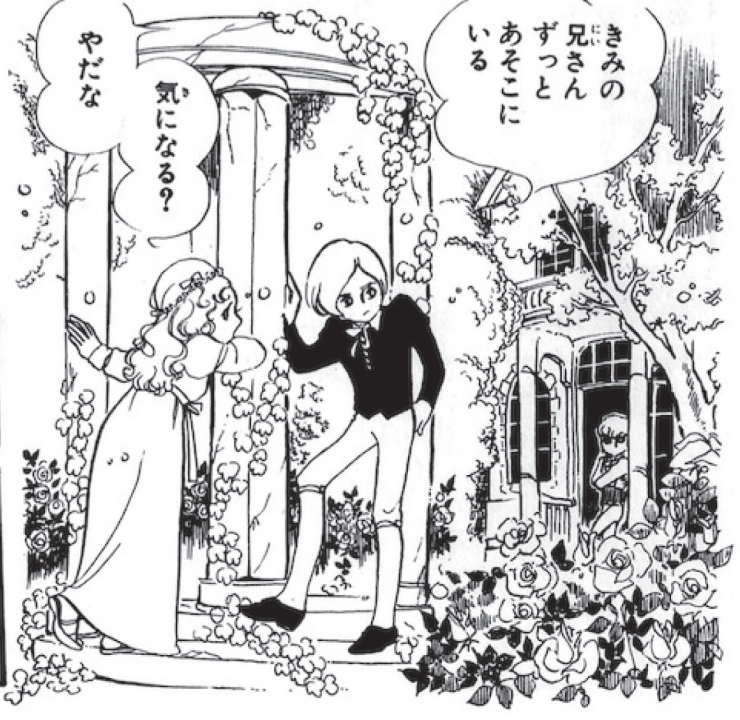
わかってないんですね！  
それだけだから…

こわいんじゃないか！  
ありませんか！



じゃ  
見えないところに  
かくれちゃえば  
いいわ

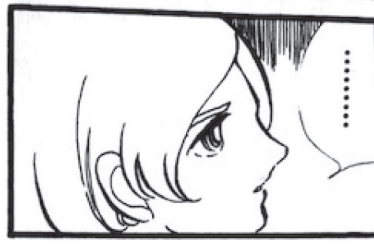
こっちよ



きみの  
兄さん  
ずっと  
あそこに  
いる

気になる？

やだな



……





ベル！  
メリー

この町にも  
そういつまでも  
いないわ

いつも旅行  
してるから

ねえ なぜ  
窓をあけないの  
暗いだろうに

病人でも  
いるみたい  
だ

じゃ いったい  
どこかへ  
行っちゃう  
の？

いつかね

いいのよ  
家を町を  
愛したり  
しないの

わたしたち  
父さまと  
母さまと  
兄さんとわたし

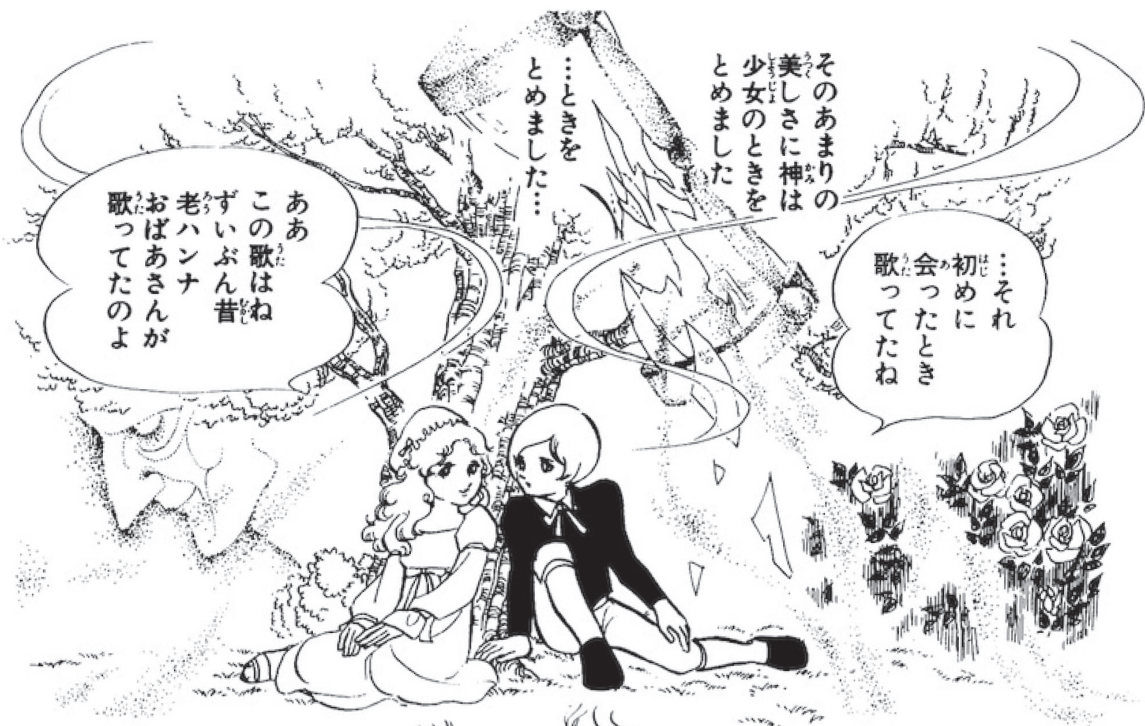


行っちゃいやだ！  
いやだ！行かないで！  
きみが好きだもの！

そのあまりの  
美しさに…

すきとおった  
銀の髪  
の少女がいました



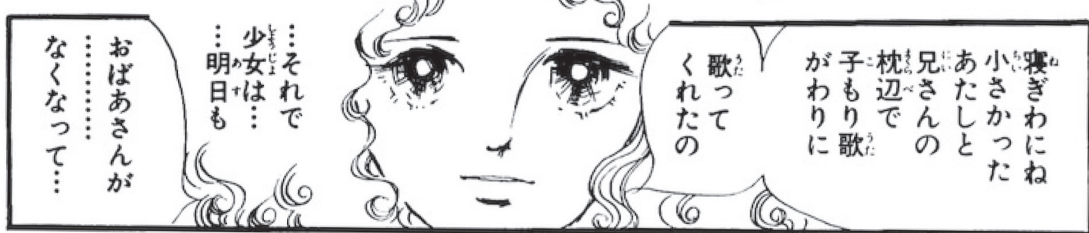


そのあまりの  
美しさに神は  
少女のときを  
とめました

…それ  
初めに  
会ったとき  
歌ってたね

ああ  
この歌はね  
ずいぶん昔  
おばあさんが  
歌ってたのよ

…ときを  
とめました…

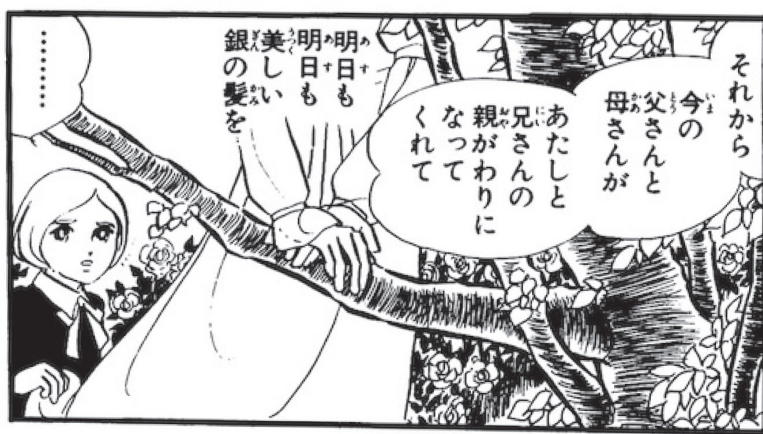


寝ぎわにね  
小さかった  
あたしと  
兄さんの  
枕辺で  
子もり歌  
がわりに  
歌って  
くれたの

…それで  
少女は…  
明日も  
おばあさんが  
なくなつて…

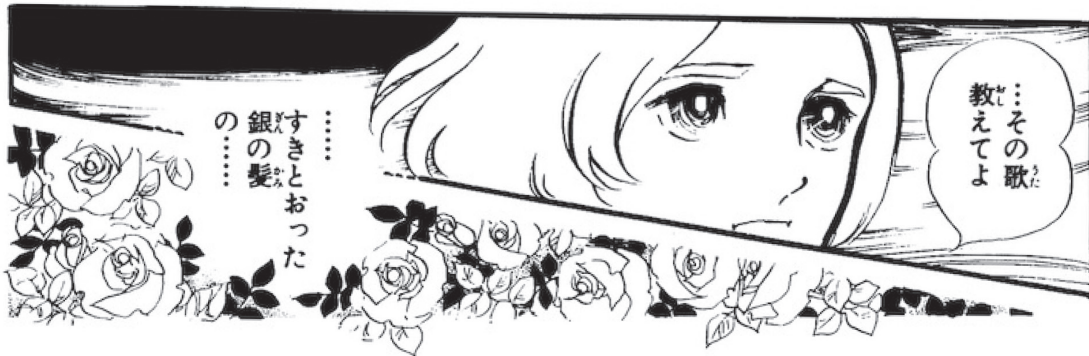


風に吹かせて  
少女のままで  
永遠のときを  
生きているのです…



それから  
今の  
父さんと  
母さんが  
あたしと  
兄さんの  
親がわりに  
なつて  
くれて

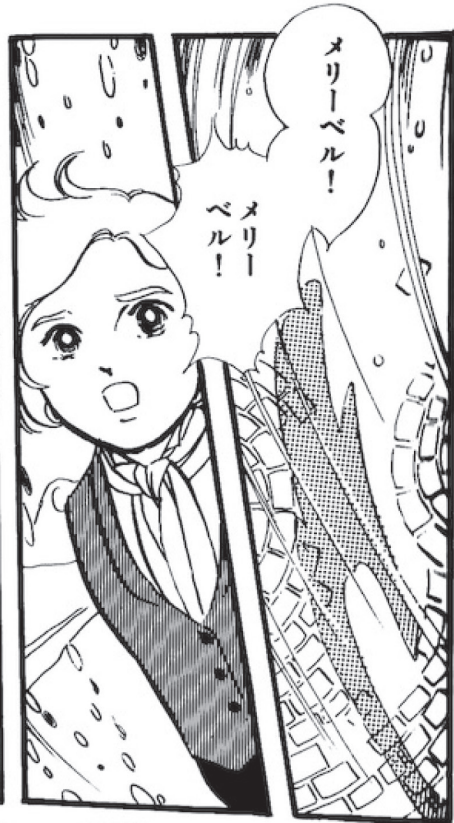
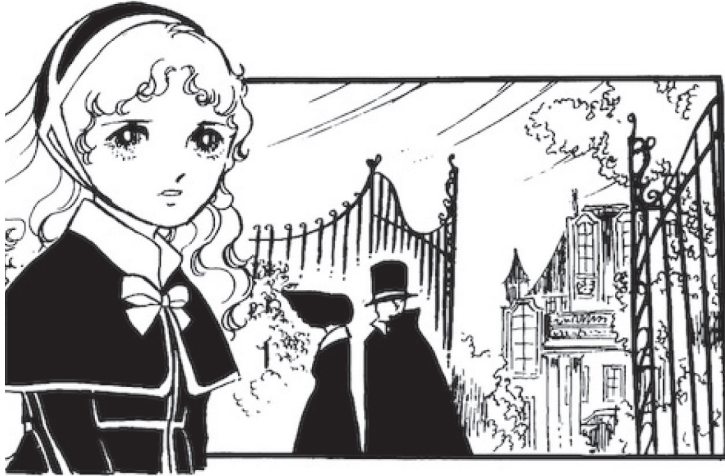
明日も  
明日も  
美しい  
銀の髪を



…その歌  
教えてよ

…  
すきとおつた  
銀の髪  
の…





メリーベル!

メリー  
ベル!



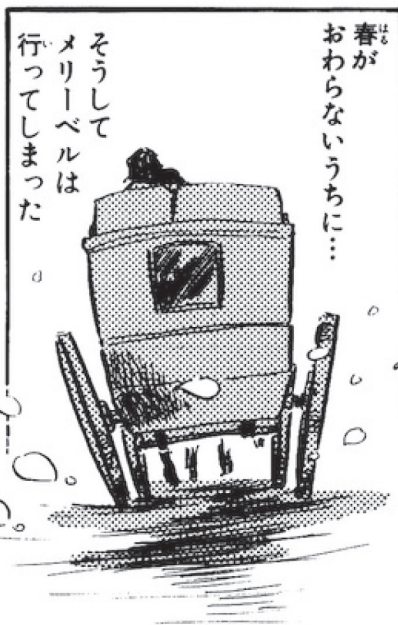
きみ 行っちゃ  
うの……

仲よく  
してくれて  
ありがとう  
チャールズ



ぼくは……だって  
メリーベル……  
きみのこと  
好きだから……

メリーベル  
おいで

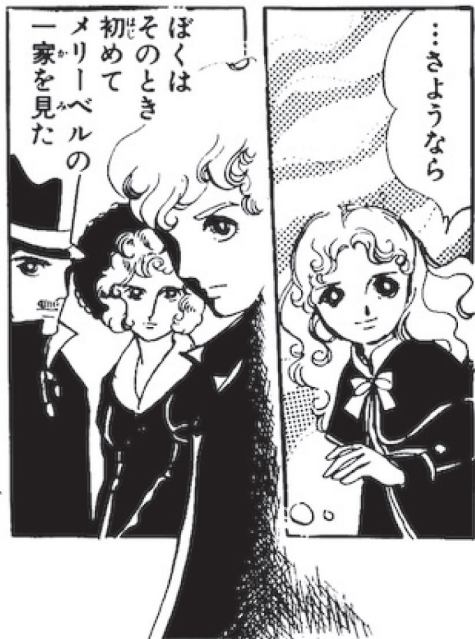


春が  
おわらないうちに……

そうして  
メリーベルは  
行ってしまった



このきょうだいを  
ひきとつたという  
美しい婦人と……  
背の高い紳士と……



……さようなら

ぼくは  
そのとき  
初めて  
メリーベルの  
一家を見た